

大飯原発再稼働弾劾！ 野田政権打倒 全原発停止－廃炉におけ闘おう

アジア共同行動(AWC)日本連絡会議

7・16反原発集会に結集したすべての仲間のみなさん！

大飯原発再稼働に踏み込んだ野田政権に対する怒りは沸騰している。この怒りを、政府に、電力会社に、集中し、再稼働を撤回させよう！

本日の集会を成功させ、全原発停止－廃炉を実現させるべく、ともに突き進んでいこう！

野田政権を徹底弾劾する！

3・11福島第一原発事故は未だ収束せず、福島をはじめ東北・関東を放射能汚染し続ける中で、5月5日、一旦は全原発が停止した。ここから、全原発停止－廃炉の新しい時代が始まるはずだった。しかし、この事態に最も恐怖したのは、電力会社、電機産業資本、日本経団連、政府－経産省官僚など原子力政策の下で莫大な利権をむさぼってきた、ごく少数の支配者どもだ。夏まで全原発停止が続き、電力需要の高い夏を乗り切ってしまったら、その先に、原発のない社会が現実の姿として現れてくることを恐怖したのだ。

その原子力政策の利害を一身に背負って、野田首相は、夏までの原発再稼働を何が何でも強行しようとしてきた。野田政権は、大飯原発をその突破口として狙いを定め、福井県、おおい町を利権と政治圧力で屈服させて再稼働強行に突き進んできた。

野田政権は6月16日、関係閣僚会議において、ついに大飯原発再稼働を最終決定した。一方で、今まで押さえつけられてきた福井県での、そして、おおい町での反対運動が、今春から始まっていた。闘いは成長し、政府に対して再稼働反対を明確に突きつけた。そして、これに呼応するたたかいが、大阪で、東京で、巨万人民の結集でたたかわれてきた。首相官邸前には、数万、数十万の人々が結集し、再稼働に反対した。

野田は7月1日、この人民の憤激の一切を無視し、踏みにじって、大飯原発再稼働を強行した。

私たちは、野田の歴史的犯罪を必ず断罪する！

大飯原発再稼働阻止の連続闘争

おおい町－福井県、関西でのたたかいは、野田政権の重圧に抗して、断固として連続的に打ち抜かれ、攻撃の只中で急速に成長した。おおい町現地を中心にした全国の反原発闘争の一大前進こそ、今後の反原発闘争の基礎となるだろう。

3・25福井集会、4・7関西集会（滋賀）から始まった大飯原発再稼働阻止闘争は、4・14枝野福井訪問に対して福井県庁前での実力抗議へと発展した。そして、4・21大阪集会－関電本社包囲行動、4・

26 滋賀県庁・京都府庁での経産副大臣抗議行動、4・26 政府主催のおおい町住民説明会をめぐる行動。まさに連続行動をたたかってきた。

5・26 「もうひとつの住民説明会」は、野田政権と真っ向から対決するおおい町での取り組みとして実現された。連続して5・27 大阪・扇町公園での反原発大集会が取り組まれた。野田の6・16 最終決定との真正面からの対決が、6・17 福井大集会であった。全国から2200名が結集した。原発立地自治体を利権配分と政治圧力で政府が押さえつける中で、福井での大集会がかちとられたのだ。

そして6月30日、「STOP 原発再稼働！ 6・30 おおい集会」がおおい町現地での650名の集会・デモとして打ち抜かれた。そして、このたたかいは、大飯監視テント村が呼びかける大飯原発正面ゲートのバリケード封鎖―占拠闘争へと連続した。大飯原発再稼働阻止は、その最終局面において大衆的実力闘争へと発展する大きな展望をつかみとったのである。

今春夏期の再稼働阻止闘争がつかみとったもの

アジア共同行動日本連は、おおい町、福井県の立ち上がった人々と結びつき、再稼働阻止の全過程をともにたたかい抜いた。私たちは、この闘いがつかみとった地平をここでしっかり確認しておきたい。

第一に、この攻防の発展によって、停止中の原発の再稼働阻止闘争を反原発闘争の決定的に重要な闘いへと押し上げたということである。大飯原発再稼働阻止闘争をおおい現地―全国が連なってたたかうことによって、今後の全国各地の再稼働阻止闘争を全人民闘争としてたたかう道筋が大きく切り拓かれたのである。

第二に、おおい町住民の中に流動が生まれ、おおい町の中から反原発闘争の新しい主体が登場してきたことである。政府の原子力政策と産官学の巨大な原発利権が原発立地自治体の首長も地方議会も押さえつけ、反対の声を圧殺してきた中で、再稼働阻止闘争の活き活きとした発展こそが、この圧制を打ち破ったのである。それは、反原発を希求する地元の人々と、関西そして全国から結集した真に反原発をたたかう勢力の結合によって、かちとられた巨大な成果である。

第三に、大飯原発再稼働阻止闘争の連続闘争は、短期間に全国の反原発闘争の結合を急激に強化するとともに、全国全人民による反政府闘争へとその闘争の方向を明確化してきたことである。

第四に、反原発闘争が大衆的な人民の意志として貫徹されつつ、闘争の中で、政府の攻撃の本質をはっきりと見抜き、大衆的実力闘争への急激な発展を開始していることである。今後の反原発闘争は、既成概念にとらわれた運動を内部から大きく突き崩して、大衆的実力闘争としてさらなる発展を遂げていくであろう。

8・6 広島青空集会へ

私たちは、大飯原発再稼働阻止闘争に連なる反原発闘争を、被爆者解放闘争、そして、原発被害が最も集中する福島の人々への連帯運動から組み立ててきた。

私たちは福島の人々と連帯集会を重ね、今春3・11には、福島現地集会を総力結集でたたかった。

被爆者、被曝者の解放は、被爆者、被爆二世・三世の歴史的闘いに学ぶ中から、つかみとられなければならない。被爆者、被爆二世・三世は、その歴史的経験から、核武装を拒絶し、原発を拒絶し、戦争反対、軍事基地反対に立ち上がってきた。帝国主義の戦争責任・戦後責任として国家補償を実現すべく、たたかっている。この確信こそが、原発再稼働とオスプレイ配備に突き進む野田政権との対極に存在している。

在特会など右翼排外主義集団が「核武装」を掲げて広島に入ることを絶対に阻止する。

反原発闘争―反戦闘争を全力でたたかい、8・6 広島青空集会に全国から結集しよう。

アジア共同行動（AWC）日本連絡会議

東京都港区新橋5-17-7 小林ビル全国一般労働組合全国協議会気付 03-3434-1236

京都府宇治市広野町西裏 99-14 自立労連気付 0774-43-8721